

## ◀ 緑あふれる しずかな町内会 ▶

# 📍 平岸高台第一町内会

平岸6条15丁目～17丁目、7条15丁目・16丁目(一部) / 361世帯

町内会に入る最大のメリットは、家族の顔を町内会の人に覚えてもらえること。子どもが成長し、親の目がゆき届かないところへと活発に行動範囲を拡げても、私が町内会に関わっているおかげで「中野さんちの子どもさん、あそこであそんでたよ」とか「今日はちょっと元気なかったぞ」とって気にしてもらえています。隣りに暮らす人だつてわからない時代に、親以外の大人の目がいくつもあって我が子を見てもらえるなんて、すごいことだと思いませんか。親としては安心な気持ちになります。子どもも誰かに見守られていると思えば、悪いこともできないんじゃないかな。

私は80数世帯あるマンション暮らしですが、マンションからはいま、うち一軒だけが町内会に入っています。会員でなければ、子どもがラジオ体操など町内会行事に参加しづらいんじゃないかと心配したことが入会理由でした。そんな心配は要らなかったのですが、それよりも町内会に入って一年目の私に、いきなり副会長がまわってきた。副会長は次年度会長に就くのがうちのルール。自営業で昼夜問わず忙しく、何かあれば夜中でも飛んでゆく仕事です。なんで私が!? と正直思いましたよ(笑)。けれども先輩役員の方々が、私の不安な気持ちを取り除きサポートをしてくださったんです。役員会の時間帯を見直し、分からないことだらけの私に何度も説明し助けてくださった。いきなりの役員経験から得たものは大きいです。役員や班長をお願いすれば、普通できない理由を挙げて断られます。「そうですね…」と引き下からず、できないと感じる理由を聞き不安をとってあげて、ともに動いてあげることが、担い手を迎える側に必要だと思います。いま最高に忙しい人が言うんだから本当です(笑)

ITを使った情報発信や入会手続きの簡略化、書類のデータベース化など、町内会にも課題はある。アップデートすべきはしつつ、変わらない町内会の良さをみなさんに知ってもらえたらいいな。



会長の  
なか たけし  
中野 剛さん

## ◀ 朝・昼・晩のあいさつきしよう ▶

# 📍 平岸高台第三町内会

平岸7条13丁目・14丁目、8条12丁目(一部)・13丁目(一部) / 178世帯

町内会の一番の目的って、向こう三軒両隣と仲良く過ごすこと。両隣のさらに隣り、隣りへと個々が気持ちよくつながるイメージです。この地縁ある人たちが、ともに吸う地域の空気は乱したくないし、汚したくない。このために町内会がある。町内会はずっと自由で、柔軟に考えてゆけるのがいいんだよ。他から決められ、強いられるものじゃない。町内会には必要なことが二つあると思っていて、一つは何ごともなく過ごせ安全・安心であること。もう一つは、これを守るために行政とともに真剣に仕事し、ときにはケンカするということです。

町内会長になったのは定年して2年め。世話になった地域の人から頼まれ恩返しの気持ちでさ。町内会長って平たく言えば昔のヤクザの親分。まちの安心と安全を守り、いさかきをなくすっていう意味でね(笑)。時に嫌なことも言わなきゃいけない立場だし、みんなをその気にさせるよう気遣う役だから。心掛けるのは、聞いて、決めること。最後は会長の判断だとしても意見を聞くことを真面目にやっています。

ほかに私がしているのは、町内を歩き回る。すると他の人が気づかない変化に気づくよ。気になったことを担当の役員と相談し手当てする。だいじな仕事だと思っています。班長には「会費を集める」、「回覧を回す」、「募金寄付のお願い」を頼んでいます。これは近所の人と顔を合わすチャンス。寄付集めの個別訪問なんてすごく嫌な役でしょう? でも10年に1回くらいの頻度で嫌なことを体験して、次の人のとき喜んで協力してもらいたいからさ(笑)

働き盛り世代に、どう町内会に関わってもらえばスムーズな引き継ぎができるかと考えて、いまは行事の応援をできる範囲でもらっています。平岸くろみ公園での「夏のこともまつり」は大評判で、花火やお菓子を喜んで子どもが集まり、協力の大人も合わせ80名くらい参加するね。行事に子どもを巻き込むことにも、今後の活動の希望とヒントがあると思うな。



会長の  
いけだ かずお  
池田 和雄さん

## ◀ 「向こう三軒両隣」がモットー ▶

# 📍 平岸高台第二町内会

平岸5条14丁目、6条14丁目 / 105世帯

小学5年で引っ越してきて以来ずっとこのまち暮らし。私の親世代の人たちが、相馬神社の祭りや町内の行事など力を合わせてきた高台地区のつながりが、いまも引き継がれているよ。

何かあったとき互いに手助けできたらいいというのが町内会。けれど見も知らぬ人どうしならそうはならないでしょ。花植えをしたり、資源回収したり、花見やラジオ体操をやったりと、ふだんいっしょに活動して顔を知っているからこそ、何かあったときには「どうしたべ?」って思い合えるんじゃない? それから、一人では解決できない困りごとを、みんなで動かしたり訴えたりする場合に、「町内会」の看板は強いと思うんだ。

うちは若い世代も、積極的に町内会活動に参加してくれるよ。毎年いろいろな町内会行事を計画しているけれど、令和2年は新型コロナウイルスが流行したことで、行事や活動はほとんど中止にせざるを得なかった。けれども「何でもかんでも中止ではなく、みんなが集まれないときでもできる事業を」という考えで、町内にある商店で町内会員が買い物したら、1世帯につき1,000円分を町内会から還元する事業を実施したよ。来た人を名簿でチェックしてもらっただけなのさ。規模の小さい町内会、お店の人も顔を知っているからできたことだと思う。喜んでもらえたと思ってるよ。

自分が町内会をやっているのは、やっぱりいっしょにする人がいるから。勤めをしながらも会長を引き受け続けられたのも、あれもこれもできない自分でも、助けてくれる仲間がいたからなんだ。

暮らす人それぞれのライフスタイルにあわせた無理のない町内会、今度こんなことをしてみたいって気軽に話せる町内会にしたいと思っています。敷居が低い町内会が理想だね。



会長の  
ささき かずお  
佐々木 一夫さん

## ◀ 明るい楽しい街づくりをめざす ▶

# 📍 平岸高台中央町内会

平岸6条12丁目(一部)・13丁目 / 312世帯

冬になると、平岸はごろも公園周辺に住む我々は、道路にたまった雪を公園になげるんです。豊平区の土木センターと協定を結び、雪なげを了解してもらっています。雪を運ぶときや、春先にいっぱいになった公園の雪山を平らに崩すとき、付近の住民が声をかけあい作業にせんと人が集まってきました。小・中学生たちも親や役員に交ざってソリで雪を運んでくれる。そういうのを見ていると、うちの町内会すごいもんだなあって感心するんです。自分たちでできることをしぜんにするって、町内会に行きわたる精神だと思うから。

協力し合えるいい町内会でも、役員など担い手となると簡単ではないね(笑)。子育て世代にお願いするにはハードルが高い。でもやっぱりそこもしぜんのかたちで出てくるのが望ましいと思っていて、上の世代がする姿を見て、若手が気づき、ついてくれるのが理想です。町内会って関与しすぎてもダメなんじゃないですか。相手の気持ちが出てきたときに、いつでも輪に迎えたい。その準備のために、レクリエーションや入学祝・敬老祝の個別訪問で、役員と会員が顔を合わせる機会をつくっているんです。レクリエーションは年に1、2回していて、アサヒビール園での懇親会には120名を超える参加があって嬉しいですよ。喜んでもらいたくて、参加費を安めに設定しています。平岸高台地区の5つの町内会が連携し行う排雪は、町内会には大きな支出だけれど、いまはまだ追加の会費をとらずに会員に還元しようと思っている。町内で課題が見つければ、そのことをもとに相談ができる。それがだいじなんです。

高齢者見守りのしくみづくりに、町内会への要請が増えていると感じるよ。でも、見守られる本人や家族は隣近所からのサポートを本当に望んでいるのか疑問でね。長続きする良い関係って踏み込んでしまうことではつづれない。何かあったら相談してねというしぜんな関係も、自分たちの考えた活動のなかから生まれるものだと思っています。



会長の  
おだち ひろあき  
小田 良廣さん